

市民参加実施記録

案件	第七次伊達市総合計画策定に係る住民懇談会
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	・平成29年12月15日（金）18時30分～20時00分 ・長和地区コミュニティーセンター「ふれあい館」多目的集会室
所管部課名	企画財政部企画課

【概要】

<出席者>

市：経済環境部長、企画財政部長、建設部参与、企画課長、財政課長、
企画調整係（事務局）

住民：8名

1. 開会
2. 企画財政部長挨拶
3. 説明（事務局から資料に沿って説明）
4. 意見交換

【住民】

伊達市の歳入の中で、ふるさと納税はどのくらいの割合を占めるのか、現在の状況を知りたい。また将来どのように増やしていく予定なのか教えていただきたい。

【事務局】

平成28年度のふるさと納税の歳入は137,000円であった。伊達市では、昨年まで返礼品をお送りする制度を導入しておらず、今年の7月から始めたところなので、ふるさと納税の歳入は今後伸ばしていきたいと考えている。今年度は、現在の段階で昨年の100倍の金額を寄付金としていただいている。ふるさと納税は地場産業の活性化にもなり、市としても寄付をいただいた財源で事業をすることができるので、これからは積極的に進めていきたいと考えている。

【住民】

自然災害に対する安心安全なまちづくりに取り組んでいただきたい。今年9月の台風による自然災害は、小さな河川の決壊には及ばなかったものの、泥水がどんどん低い地に運び込まれていた。防災対策を最優先してまちづくりに取り組んでいただきたい。長流川の堆積物は、10年近く何も手をつけられていない。今回ももう少しで川が氾濫するという状況になったが、それでもなお整備はされず、溢れてはじめて手がつけられるのではないかと悲観的に考えてしまう。また、防災に関する放送設備が極めて貧弱で、何を言っているのか全く聞き取れなく、何十年にも渡るこの地域の課題であると感じている。こうした普段の生活を脅かされるような事にこそ力を注いでいただきたい。

【事務局】

長流川の土砂については、9月に自治会から要望をいただいております、北海道が管理している河川である為、再度掛け合いをしている。道からは、今年度中に流木等を撤去すると返答をいただいております、市としても早くして欲しいと思っている。

【住民】

災害時に、被害弱者へ迅速にどのように伝達するのかがはっきりしていない。市として、長和地区で災害があった場合の避難場所の指定や周知に取り組んでほしい。津波や川の氾濫、有珠山噴火では避難場所も変わると思うので、災害の種類によって、避難場所をあらかじめ指定してほしい。

【住民】

道内でも富良野周辺等、大きな災害が同じ地域で繰り返されている状況も見受けられる為、伊達市全体として早急に避難所や小さな河川の改修も含めた防災計画を立てていただきたい。

【住民】

今年9月の台風18号では、長流川の被害のほか、国有地の流木が市内の小河川や橋げたにひっかかったことによる被害もあった。災害というのはいつどこで何が起こるか予知出来ない為、流木に関しては、被害があった事を国にも申し入れて、防災について考えてほしい。以前から何度か問題提起されていた国有地における課題も耳にしているので、市が状態を確認した上で、国に対する防災対策の在り方や進め方についても話した方がよいのではないかと思う。

また、ふるさと納税に関しては、道内の小さな町村で非常に効果をあげているところもある。本州ではふるさと納税がきっかけとなり移住者が増え、人口増に繋がり成功をおさめているというケースもあるようなので、ふるさと納税がどうあるべきかを深く検討した方がよいのではないかと思う。

また今日の懇談会は、本来であれば伊達市全体の懇談会になると良いと思う。地域の意見を聞きたいという事なので、長和地域の皆さんが集まりより深い話になれば効果が上がると思うが、なかなか人が集まらず全ての問題点を吸い上げられないというのは非常に残念である。今後このような会を行う時は、全市民に呼びかけることも重要だが、長和地区にはメインとなる7~8団体（長和地区社会福祉協議会、体育振興会、老人クラブ、消防団等）があるので、彼らに呼びかけることで高い参加率が期待できると思う。より多くの皆さんの意見徴収をすることが大切だと思う。

【住民】

先日長和小学校で、冬休み中に高校生に小学生の勉強をみてもらえる機会をつくってほしいという提案がされた。伊達市の高校に通う生徒は地元の子ばかりではないようだが、高校生に活躍してもらえるとまち全体が非常に活気づくと思う。高校生の柔軟な考え方や高校生が活躍できる場を、まちづくりや第七次総合計画の中にも盛り込んでいただけたらと思う。また「伊達学」のように、小学生に限らず一般住民（大人）であっても伊達の歴史について学ぶ、振り返るといった機会をつくってほしい。

【事務局】

今年4月に、総合計画の策定に向けた取り組みの中で、高校生に政策提案を考えてもらうという企画を開催した。学校側には非常に熱心に取り組んでいただき、カルチャーセンターで市民の皆さんの前で発表したり、小学校を回って発表する場もつくる事ができ、生徒の自信にもつながったとのことであった。伊達高校では、来年度も授業の中でまちづくりについて考える機会をつくってほしいとお話をいただいているので、市としてもそうした取り組みを継続していきたい。

「伊達学」についても、まずは子ども達からということで検討しているが、市民全体に広

がることが一番の理想形であるので、引き続き検討を重ねていく。

【住民】

小学生が高校生に勉強を教わる、または一緒に遊んでもらうといった高校生と小学生が触れ合う時間を、冬休みや夏休み期間中につくれないものか。長和小学校で提案されたこの取り組みを、児童館等いろいろな地域で実現できないものかと思っている。

【住民】

先日知り合いから、長和のお米が横浜で「長流米」という名前で売られているという話を聞いた。長和米はもともと優秀なお米であり、最近になってまた有名になりつつあるのかと感じる。こうした機会を活用して、全国的に広める必要があるのではないかと思う。

また、長和地区は工業団地に指定されていたが、その指定はもう無くなったに等しいと言える。この点は次の第七次総合計画の中で、どのように取り入れていくのか教えていただきたい。

【住民】

津波のリスクがあるので、今さら工場用地にはできないのではないか。

【事務局】

津波のリスクがある事は事実である。そのリスクをわかった上で来るという所があれば、できないわけではないが、現実的にはなかなか難しい。一部伊達市内にある工場の拡張という事で移転計画があり土地の売買が成立したものの、工場の建設には至っていないという現状がある。

【住民】

まだ工業地帯の指定は外さず、これからも誘致するつもりがあるのであれば、十何年も更地のままで手もつけていないような土地を何とかしないと、まちは活気がつかないのではないか。

【事務局】

具体的にこの先どうなるかわからないが、工業団地の指定を外して何か別の形を考えるといった方向転換も必要かもしれない。工業団地としての企業誘致がどれくらい見込めるかを考えると、なかなか難しい面があるので今後検討が必要である。

【住民】

今日の民報に、黄金地区で風力発電の建設反対事案が出たという記事があった。現在伊達市内において、太陽光パネルの電力確保工事をやっている箇所は数カ所に渡る。例えば、黄金地区と室蘭の境、志村化工の跡地、志村化工の住宅地跡などである。第2次工事を進めている地域もあると思うが、太陽光発電は周囲に人的被害を及ぼすような電気や工事ではないという理解で良いのか。

【事務局】

太陽光発電は、市内のあちこちでやってきている。志村化工跡地については、当初は全面での計画であったが、北電との系統連携によって発電量の制限があり、結局は敷地の半分の利用になったという経緯がある。将来的には北電の判断によって追加の建設が決まると思う。太陽光は規模によっても多少違うとは思いますが、人的被害や環境被害を及ぼすといった事

例は少ないものであると思っている。

【住民】

砂川の火力発電所が閉鎖すると騒がれている。伊達市の火力発電所も、耐用年数からすると閉鎖が間近になっているのではないかと思う。火力発電所の閉鎖の可能性について、第七次総合計画では全く触れられないと言って良いのか。

【事務局】

これに関しては北電側の話になるので詳しい事がわからない状況である。泊原子力発電所に関して、活断層ではないと実証できないということは、まだしばらくは再稼働出来ないだろうと一般的には考えられる。それをまかなう為の電力となると、やはり伊達の火力発電所となり、稼働率は3.11以来上がっている。これを無くすとなると代替の施設をどこかに建てなければならないということにもなる。

現在石狩で天然ガスの発電所をつくっているが、それができた時にどうなるか、需要に対して供給量が追いつくのか追いつかないのか、それを北電がどのように見極めるのかという事になるかと思う。伊達の発電所も年数は相当経っているので、あとは北電がどのように考えるのか。また、伊達より古い発電所もあるので、おそらくそちらの対応が先になるだろうと予測している。

【住民】

いずれにしても今、太陽光発電、風力発電が普及してきている状態である。あわよくば火力発電所を無くす為の1つの行事なのかと考えるところもあった。

【事務局】

太陽光発電は、北電とは別の事業者がやっていることである。北電はどちらかということ、系統連携を取る為にかかる費用負担が非常に大きく、嘆いている点もある。電力量に住民負担も上乘せとなる為、北電としても正直難しいという状況であると思う。ただ国の施策としては自然エネルギーにシフトしていくというのが基本にあるようなので、今後原子力発電の稼働をどこまで減らしていくのか、全廃の方向でいくのか、まだ全体的には見えていないが、自然エネルギーに頼っていかなければならない状況は出てくると思う。

【住民】

元志村化工社宅跡の太陽光パネルの入口は私の家の場所にあり、奥の地主の土地にも大々的に太陽光発電のパネルができています。私の所は入口なので離れているが、すぐ近くにも住宅が立ち並んでいる。太陽光発電は確実に人的被害は無いという認識でよいのか。

【事務局】

伊達市内にもあちこちあるが、今の所太陽光発電に関して苦情が寄せられてくることはない。ただよく聞くのは、長和の話でいうと、隣が畑で雨が降った時に土が畑の方に入ると困るといった相談で、砂利を敷くなどして入らないように処置をお願いする事はある。

【住民】

風車の場合は、騒音や低周波の影響で健康被害があると聞いたことがある。

【事務局】

風車の被害でよく言われるのは騒音である。低周波で健康被害を訴えるケースもある。た

だ国の言い分になってしまうが、因果関係がなかなか認められないらしく、判断はとても難しい。騒音に関しては、一般的に言われる不快に感じるような音が減衰する距離というのがある程度示されている。

【住民】

高齢者の認知症の問題について、認知症になったら当然施設に入ることになると思うが、もっと市で住民に対して介護予防の周知、啓蒙をしてほしい。時々やっているようであるが、あまり介護予防の講習会等は開かれていないように感じる。認知症になったら施設に入りそれなりの対応をしなければならないと思うが、もう少し予防に力を入れて欲しいと感じている。

【事務局】

確かに今はどちらかというと予防に力を入れる時代であると思う。市でも健康カラオケ等で普段から皆さんとコミュニケーションをはかりながら予防を呼びかけたり、地域でグループを作っていただき地域のみなさんに指導者になっていただくといった取組を進めている。これからさらに予防の観点が重要になってくると思うので、国や市としても予防のための取組を進めることで動き出している。

【住民】

災害について、9月の台風災害の際に民生委員として避難場所を確認して回ったが、パンク寸前になっている施設もあった。高齢者は足がないと避難場所への移動もできないので、地域に高齢者が集まれるような場所が必要であると感じる。

【事務局】

今回の台風災害では、たまたま長和小学校が学校開放で利用されていた関係で、利用者がそのまま避難できた、近隣の高齢者が避難できたという話を聞いた。

【住民】

高齢者に対しては、移動の足の準備や早めの対策が必要だと思う。先日、防災センターの方とお話する機会があった。雨風の中では、消防車が走りながら放送をしても聞こえないので、どこかに停まって避難勧告の放送を流すことも重要ではないかと思う。また、災害時はみんなテレビの情報を頼りにしているので、テレビのテロップに細かく避難情報を流してもらえたら、音が聞こえない人に役立つのではないか。

【事務局】

これからの高齢化に備えて、避難弱者をどうするかについては個人の同意を得た上でリストアップをして、何かあった時にどうするかをまとめている最中である。

テロップに関しては、9月18日もある程度は情報を流したはずだが、流れた時にはもう既に遅かったのだと思う。

2年前に地域コミュニティFMラジオを開設したのも災害との関係があった。停電するとテレビが見られなくなる為、役に立つのはラジオの情報である。コミュニティFMラジオの周知も含め、いろいろなケースに対応出来るように対策を練っている。皆さんからご意見をいただくことも大切であり、いただいた意見を総合計画の中に盛り込んでいこうと考えている。

【住民】

災害時に、自治会長や民生委員が、誰を車に乗せて、誰を乗せないという判断が難しく悩んだという話を聞いた。また、手術後の退院したばかりで避難所には行けないといったケースもあった。弱者への対応は本当に難しいと感じた。

【事務局】

個々のケースで全て対応が変わるので非常に難しいと思う。ご近所の皆さんで知り得る情報から判断していただくことにもなると思うので、こういう備えがあったら良いといったご意見をいただき、役所も行政としてどういったことに備えておけば良いのか、どういう方法が最適なのかを皆さんと一緒に話し合っ決めていくしかない。災害対応についてはいろいろなお話をいただけたらと思う。

【住民】

災害時は、避難する時の心得が非常に大切だと思う。東日本大震災の時には、1度避難したが隣の人が気になり、二次災害にあって亡くなられたという人の話を聞いた。まずは自分の安全を確認し、二次災害もあり得ることなど、避難の心得を文書等で示し、市民に知ってもらうべきだと思う。市民はいつでも避難できるような備えが必要である。災害は忘れた時に突然やってくるので、市民全体に啓蒙していくことが大切だと思う。

【事務局】

2000年の有珠山噴火から20年近く経過し、役所の職員でも災害を経験した人は少なくなってきた。役所でも専門家を呼んで有珠山について勉強会を開いたり、山に登って学んだりといったことをしている。住民の方々も知らない世代が増えてきているので、教育の観点からも、大変だった経験などを知っていただく時間が必要かもしれない。

【住民】

福祉の問題・実態に関して、できれば学校教育の中で将来を担う若い世代に知識を植え付けていただきたい。大人だけの問題ではないので、若いうちから福祉の問題に関心をもってもらい、まず日本の福祉はどうなっているのか、伊達市の場合はどうなのか、といったことを知ってもらうことが大切なのではないかと思う。

【住民】

避難場所で長和小学校の話題が出たが、校庭の真ん中に置いてある残土はいつまで置いておくつもりなのか。あの場所は有珠山噴火の一時避難場所になっているが、このままだと万が一噴火した際には残土が邪魔で車も入れない。また、旧校舎には備品等が詰め込まれているようであるが、2階の旧教室等を住人の災害の避難場所として確保することはできないのか。

【事務局】

残土については、伊達市の工事で出たものではなく、道の管轄する工事から出たものであると思う。避難場所の確保、2階を開けておいた方が良いというご意見は防災担当に伝える。

【住民】

残土について今は校庭の真ん中にどんと積まれている状況であり、どちらかに寄せてもらうといった対応がなければ、本当に明日有珠山の噴火が起きたら逃げられない。

【住民】

長和地区が抱える問題点について、自治会長会の時には毎年必ず研修会を行っている。

長流川の雑木伐採事業については、雑木を切るだけでは解決できないので、土積の溜まった川底を掘り起こすことから始めて欲しい。川は土積を撤去することで広がる。市長も長流川については気にされていると聞いている。

また、災害については、長和は有珠山が近く、横には長流川が流れているので、いつどういった時に災害が起こるかわからない。後方には洞爺湖温泉があり、道幅の狭い道路が決壊した時に相当な水量が流れ込むことも考えられる。今は向かいの駒ヶ岳についても噴火レベルが騒がれている状況であり、万が一駒ヶ岳が噴火した際に陥没するか隆起するかによって津波の状態は全く違ってくる。長和については噴火と河川ばかりではなく、駒ヶ岳対策についても今後取組んでいただきたい。

1月21日に開催される長和第1区理事会の災害に対する勉強会で、市の防災対策の方たちの説明を受ける予定である。今回の9月18日の災害も含めて、予期しない事案が発生したことについて問題点を提起しながら勉強会を開いていきたいと思っている。長和近辺の山川ばかりではなく、向かいにも大きな山があること、300年前の駒ヶ岳噴火や有珠山噴火では相当な人数が亡くなっているといったことも踏まえて、河川が氾濫しない為にぜひ川底を掘り起こしていただけたらと思う。そのままにしておくと死亡者が出るのではないかと予期してしまう。今後の対策を充分検討していただきたい。

【事務局】

市長も長流川の堆積物について気にしている。今は想像を超える雨がいつどこで降るかわからない時代になっており、伊達市はそんなに降っていなくても、上流で降った雨が流れてくることによる被害もあるので、早く対策を取らなければならないと考えている。

【住民】

大滝で降った雨量が多くて長流川に流木がひっかかったとなれば、簡単に橋が決壊してしまうと思う。ぜひ川幅を広げることによって流路をつくり、対策を進めてほしい。何年も長和地区の自治会長研修会で話題になっている議題なので、ぜひ数年の内に進めてもらいたい。

【住民】

旧志村化工社宅跡地の太陽光パネルについて、もし雨水が流れて畑に入ったり、砂利が入ったりした時は、市が窓口になって対応してくれるのか。それとも直接会社に話をすれば良いのか。

【事務局】

直接会社に話していただいても構わないが、ご相談いただければ市からも連絡は可能である。

【住民】

太陽光については、市からの要請であれば受け入れる側（業者）も真剣に対応すると思う。伊達市の問題なので、受け皿になっていただくのは市が良いのではないと思う。

【住民】

道路について、北電の前に新道ができて、長和から先に行けなくなっている。壮瞥の方に行く道は1本しかないが、朝の通勤時や帰宅の時間帯は渋滞がひどいので、もう1本道路が

あったら良いと思う。渋滞緩和のための道路整備は、第七次総合計画には入らないのか。また、有珠の方のトンネルをくぐって海側を通るといった話もないのか。

【事務局】

2000年の噴火のあとは国道しかないので、海側に道路を作ったらどうかという意見があり一時期検討をされていたのも事実であるが、現実的には難しい状況にある。これに対しては北海道に要望はしているが、現実的ではないと感じる。ただ、現在は湖畔側から伊達の関内に抜ける道路を作っており、そちらは着実に進んでいる。

【住民】

伊達市が一億円近く使って掘り出した温泉は、埋め戻されて全然利用されていない。伊達市は福祉行政が盛んになり、福祉施設も多い。高齢者には温泉が最適と言われているが、この温泉を各施設にひく予定はないのか。

【事務局】

温泉については、ヒ素の問題があって適さないという結論に至った。

【住民】

長流川に面した温泉はすべて条件が同じであるから、あの場所だけがヒ素が多いという訳ではない。

【事務局】

温泉が出た際にいろいろな成分分析をし、利用方法も考えた上で結果的に埋め戻したという経緯があるので、あの場所をまた掘り起こして再利用するという考えはない。

【住民】

今の河川も、ものすごくヒ素の濃度が高いということか。

【事務局】

掘った時に良い温度の物も出たが、ヒ素の含有量が多過ぎて諦めた経緯がある。

平成29年12月開催

第七次伊達市総合計画に係る

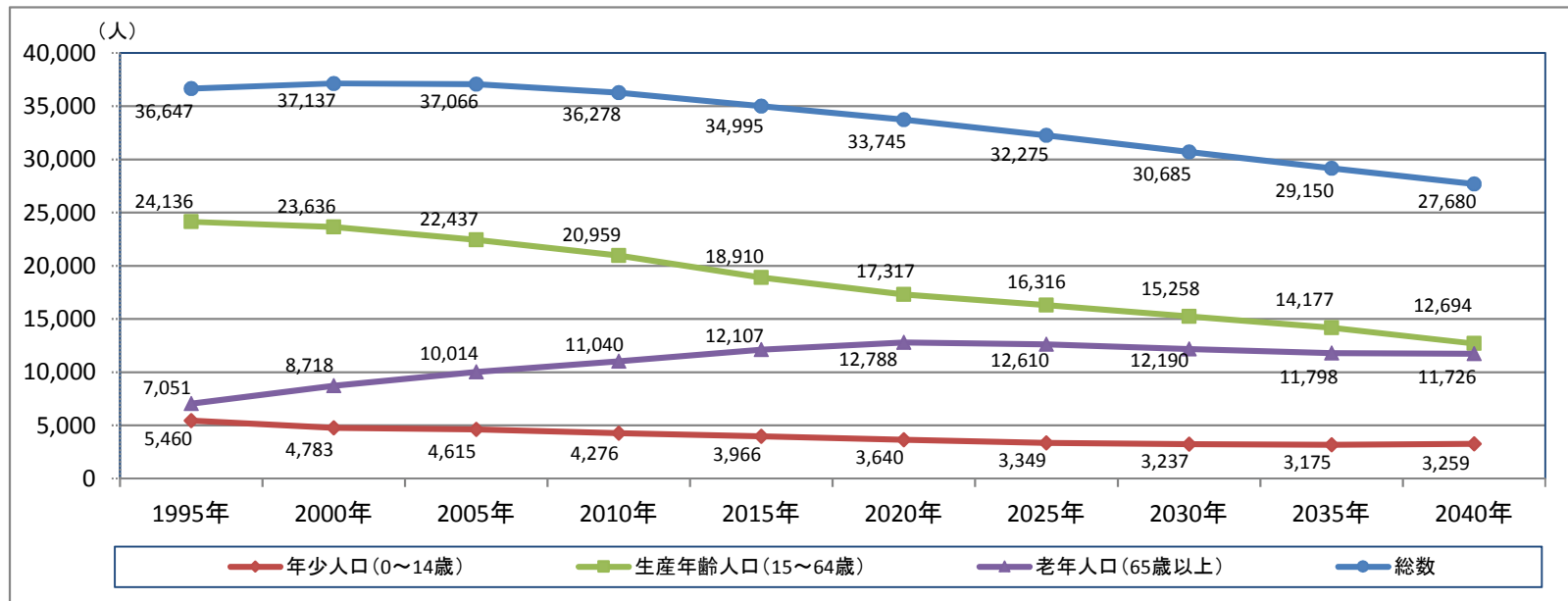
「住民懇談会」

伊達市企画財政部企画課企画調整係

■人口の将来展望

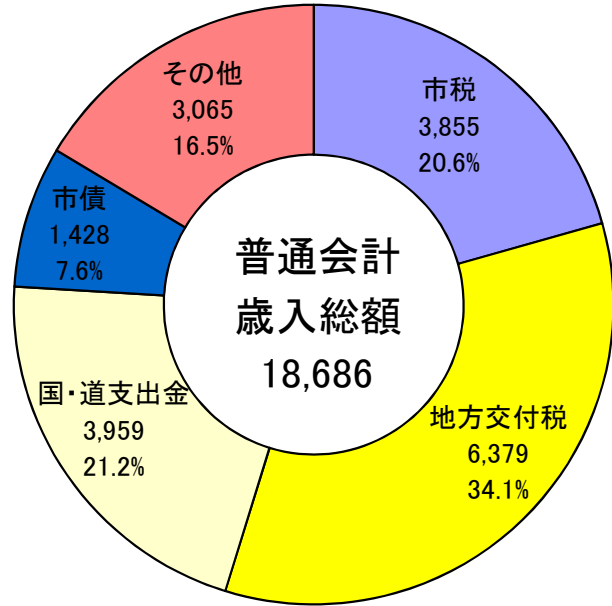
年代	実績値					推計値				
	1995年 H7	2000年 H12	2005年 H17	2010年 H22	2015年 H27	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	36,647	37,137	37,066	36,278	34,995	33,745	32,275	30,685	29,150	27,680
年少人口 (0～14歳)	5,460	4,783	4,615	4,276	3,966	3,640	3,349	3,237	3,175	3,259
生産年齢人口 (15～64歳)	24,136	23,636	22,437	20,959	18,910	17,317	16,316	15,258	14,177	12,694
老年人口 (65歳以上)	7,051	8,718	10,014	11,040	12,107	12,788	12,610	12,190	11,798	11,726
うち 75歳以上	2,859	3,799	4,648	5,647	6,280	7,007	7,922	8,216	7,856	7,384

※2015年9月策定の伊達市人口ビジョン「人口の将来展望」に、2015年国勢調査結果を反映し再推計したもの。単位は「人」

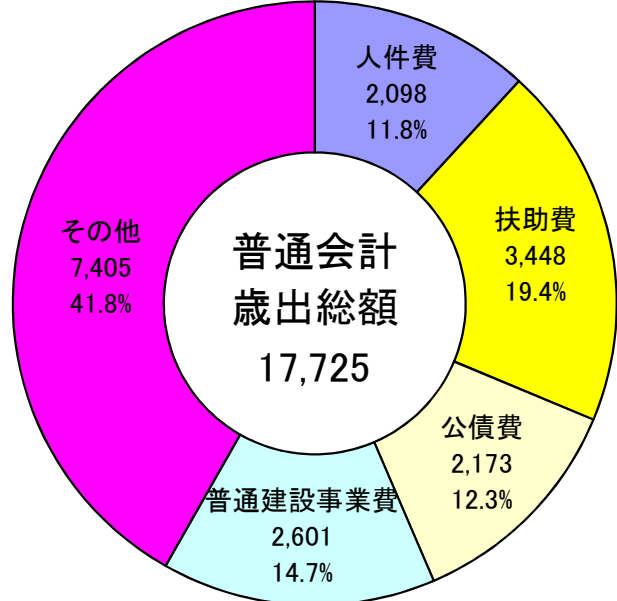


■ 財政見通し

平成28年度普通会計歳入決算 単位:百万円



平成28年度普通会計歳出決算 単位:百万円



地方税及び普通交付税の推計 単位:百万円

